

木徳神糧株式会社

2010年12月期決算説明資料

2011年3月3日(木)

本日の内容

■2010年12月期業績の報告並びに 2011年12月期の業績予想

取締役常務執行役員 いよだ なおき
管理部門副部門長 **伊豫田 直記**

■今後の経営戦略

代表取締役社長 ひら やま **平山** まこと **惇**

2010年12月期業績の報告並びに 2011年12月期の業績予想

取締役常務執行役員
管理部門副部門長
伊豫田 直記

目次

1. 連結損益計算書
2. 連結セグメント別損益
3. 連結貸借対照表
4. 連結有利子負債残高の推移
5. 連結キャッシュフロー
6. 個別(単体)の概況
7. 2011年12月期の業績予想

1. 連結損益計算書

単位: 百万円

項目	10年12月期実績	09年12月期実績	増減	(参考)予想
売上高	102,284	104,429	△2,145 (△2.1%)	107,320
営業利益	1,226	1,042	+184 (17.7%)	1,140
経常利益	1,087	941	+146 (15.5%)	900
当期純利益	585	578	+7 (1.2%)	500

前年同期比の主要増減要因

売上高:	米穀事業	△1,943百万円(販売単価の下落)
	鶏卵事業	△325百万円(販売数量の減少)
営業利益:	米穀事業	+386百万円(適正在庫、販売コストの節減)
	食品事業	△136百万円(鶏肉販売不振、惣菜加工の採算悪化)
経常利益:	営業外費用	+22百万円(為替差損+48百万円、支払利息△36百万円)
当期純利益:	特別損失	+85百万円(厚生年金基金解散補填損失+76百万円)
	法人税等	+72百万円

注: 数値は百万円以下切捨て。

2. 連結セグメント別損益

単位：百万円

項目	10年12月期実績		09年12月期実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
連結合計	102,284	1,226	104,429	1,042	△2,145	+184
米穀事業	83,301	1,698	85,244	1,312	△1,943	+386
食品事業	8,628	48	8,670	184	△42	△136
鶏卵事業	6,109	98	6,434	157	△325	△59
飼料事業	4,245	258	4,080	250	+165	+8
消去又は全社	-	△877	-	△861	-	△16

注：数値は百万円以下切捨て。

3. 連結貸借対照表

単位:百万円

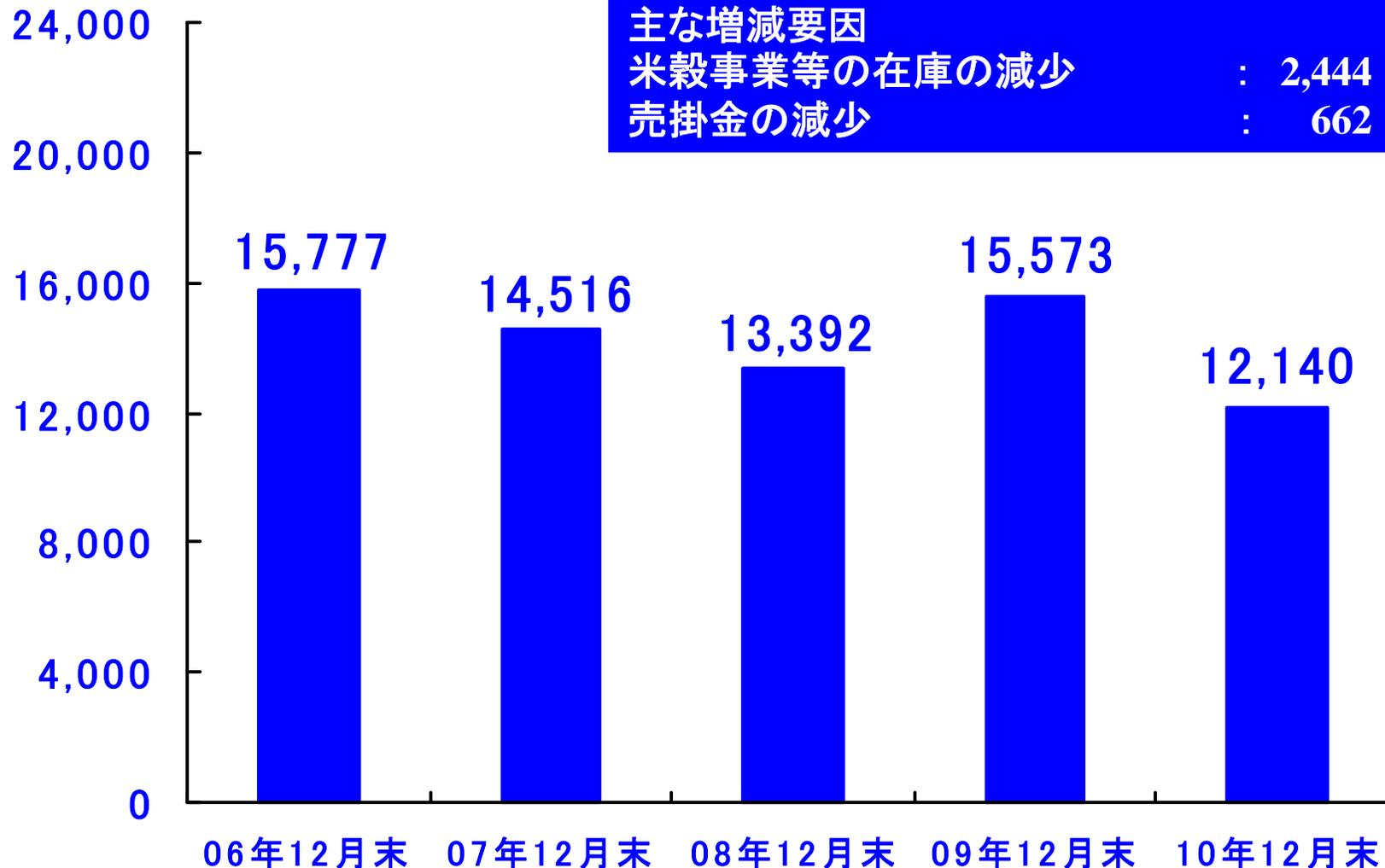
項目	10年12月期 実績	09年12月期 実績	08年12月期 実績	10年と09年 の増減	注記
流動資産	17,495	20,577	18,408	△3,082	たな卸資産 △2,444 売掛金 △662
固定資産	8,228	8,525	8,905	△297	
資産合計	25,724	29,102	27,313	△3,378	
流動負債	16,981	21,120	19,123	△4,139	短期借入金等 △3,697 前受金(*) △871 未払消費税等 +360
固定負債	2,990	2,730	3,463	+260	長期借入金 +366 社債 △101
負債合計	19,971	23,850	22,587	△3,879	
純資産合計	5,752	5,252	4,726	+500	利益剰余金 +542
負債純資産合計	25,724	29,102	27,313	△3,378	

(*)前受金の主な増加要因は、ミニマム・アクセス米に係る取引によるものです。

注:数値は百万円以下切捨て。

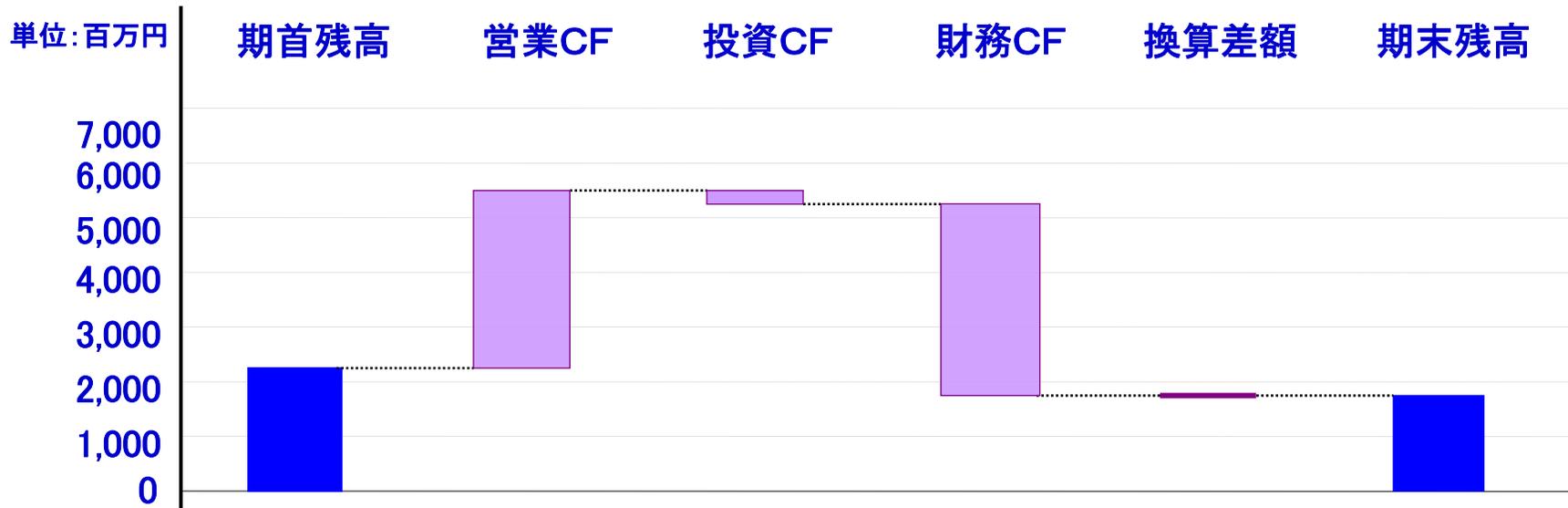
4. 連結有利子負債残高の推移

単位：百万円



注：数値は百万円以下切捨て。

5. 連結キャッシュフロー



2009年12月	営業CF	投資CF	財務CF	換算差額	2010年12月
2,035	+3,580	△246	△3,464	△3	1,901

営業CF:	たな卸資産減少	2,412	税金等調整前当期純利益	988
	売上債権減少	655	法人税等支払額	△568
投資CF:	投資有価証券売却収入	88	設備投資額増加	△341
財務CF:	短期借入金減少	△3,549		

注: 数値は百万円以下切捨て。

6. 個別(単体)の概況

単位:百万円

損益計算書抜粋	10年12月期実績	09年12月期実績	増減	(参考)予想
売上高	85,469	86,713	△1,244	88,900
営業利益	1,020	812	+208	900
経常利益	945	732	+213	740
当期純利益	515	416	+99	420

貸借対照表抜粋	10年12月期実績	09年12月期実績	増減
流動資産	13,516	16,229	△2,713
固定資産	6,635	6,869	△234
資産合計	20,151	23,098	△2,947
流動負債	13,111	16,781	△3,670
固定負債	2,410	2,137	+273
負債合計	15,521	18,918	△3,397
純資産合計	4,630	4,179	+451
負債純資産合計	20,151	23,098	△2,947

注:数値は百万円以下切捨て。

7. 2011年12月期の業績予想

単位:百万円

項目		11年12月期 予想	10年12月期 実績	09年12月期 実績	11年と10年 の増減
売上高	連結	106,235	102,284	104,429	+3,951
	単体	89,265	85,469	86,713	+3,796
営業利益	連結	1,192	1,226	1,042	△34
	単体	1,005	1,020	812	△15
経常利益	連結	1,056	1,087	941	△31
	単体	926	945	732	△19
当期純利益	連結	453	585	578	△132
	単体	496	515	416	△19

注:数値は百万円以下切捨て。

今後の経営戦略

代表取締役社長

平山 惇

目次

1. 基本的な考え方
2. 当社を取り巻く経営環境
3. 当社の経営戦略

1. 基本的な考え方

キーワード

- ・ 環境変化に即応
- ・ 存在意義の発揮

コメビジネスを通して国内のみならず、海外を含め、世界中の消費者に日本米、日本食の素晴らしさを発信し、健康で楽しいライフスタイルの実現をサポートしてまいります。

2-1. 当社を取り巻く経営環境（食品業界全体）

食品の安全・安心はもとより、
消費者は価格を重視しているが、
新たな価値も求めている

- ・国内需要の減少
- ・消費者の節約志向
- ・業界再編の加速

世界の
穀物相場の
高騰

行政規制の
運用強化

人口の減少、
少子高齢化

雇用・所得、老後
への不安

2-2. 主力の米穀事業を取り巻く経営環境

人口減少に伴う
需要・規模の減少

小売・外食における
価格競争の激化

将来への不安で
消費意識に影響

外食の減少、中食・内食への回帰、
食品に対する消費者の節約志向が根強い

コメ卸を取巻く環境が厳しい

国内市場

- ・大手商社の動きが活発化
- ・中小卸の淘汰が加速

海外市場

- ・成長市場の開拓が不可欠

生産過剰・供給過剰が継続され、
販売価格下落圧力の中で卸会社のコスト負担増

コメレサ法施行、
JAS法運用強化

産地在庫を含む
民間在庫の過剰

農政やTPP参加へ
の不透明感

3. 今後の経営戦略

「新たな価値創造」

1. 国内における確固たる地位の確保
2. 海外におけるコメビジネスの拡大
3. 新しい用途、付加価値商品の開発
4. 特徴ある飼料事業の成長
5. 食品事業・鶏卵事業の収益改善

3-1-1. 今後の経営戦略

国内における確固たる地位の確保

- ◆主要取引先におけるトップシェアの堅持
お客様のニーズを俊敏に捉え、存在意義を発揮し、
ポジティブな営業戦略を展開
- ◆新規取引先開拓の強化
質・量ともに他社を圧倒できる「攻めの営業」
- ◆グループの生産管理、品質管理のレベルアップ
ISO認証取得の促進、管理ノウハウや情報の共有
- ◆中京・東海地区への営業進展
昨年設立した子会社(木徳東海(株))は初年度黒字実現



少量詰合せパック

3-1-2. 今後の経営戦略

国内における確固たる地位の確保

主要な生産及び販売拠点

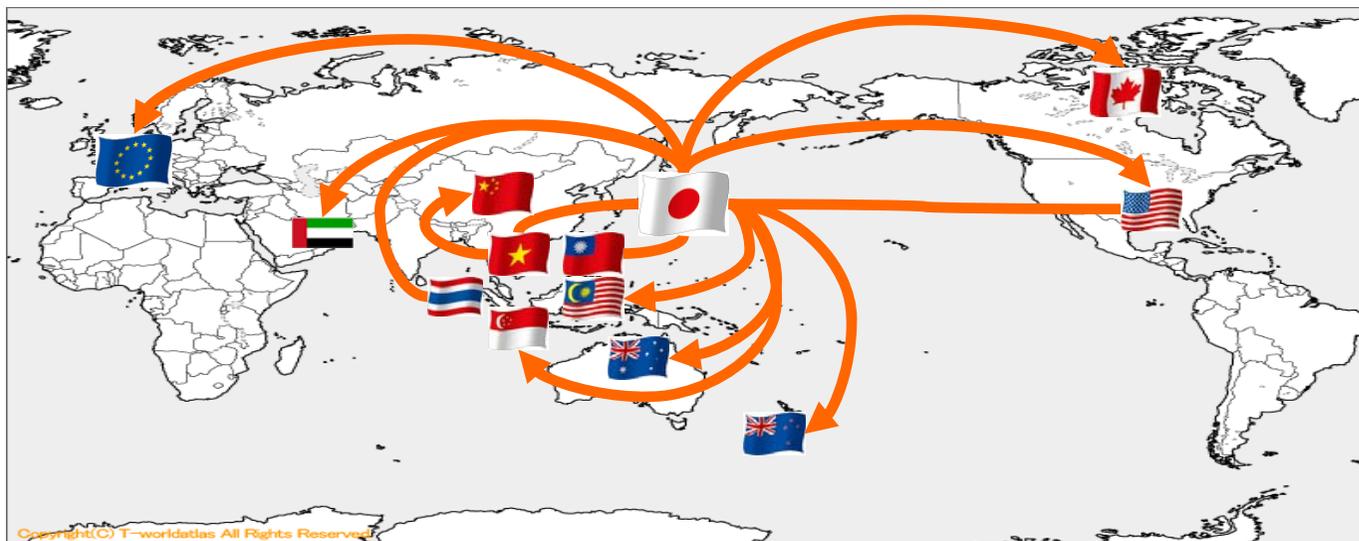


3-2-1. 今後の経営戦略

海外におけるコメビジネスの拡大

◆ 三国間貿易の拡大

シンガポールや台湾のビジネスインフラを整備し、
ベトナム産ジャポニカ米をはじめ、アメリカ産米、
タイ産米をシンガポール、マレーシア、カナダ、
EU、中国等へ販売拡大



3-2-2. 今後の経営戦略

海外におけるコメビジネスの拡大

◆中国への進出

2011年2月11日に当社51%出資合弁会社
「木徳(大連)貿易有限公司」を設立し、
東北三省産米等を日系小売業や外食業向けに販売



合弁会社概要:

会社名:木徳(大連)貿易有限公司
資本金:250万元(1元≒12.5円)
比率:当社51%、大連天遠国際物流49%
代表者:董事長 平山 惇
設立:2011年2月11日
期間:20年間

東北三省(黒龍江省、吉林省、遼寧省)は
ジャポニカ米をはじめ、豆類、トウモロコシを
中心とした中国最大級の農業地帯。
近年中国は旱魃や水不足に悩まされている。

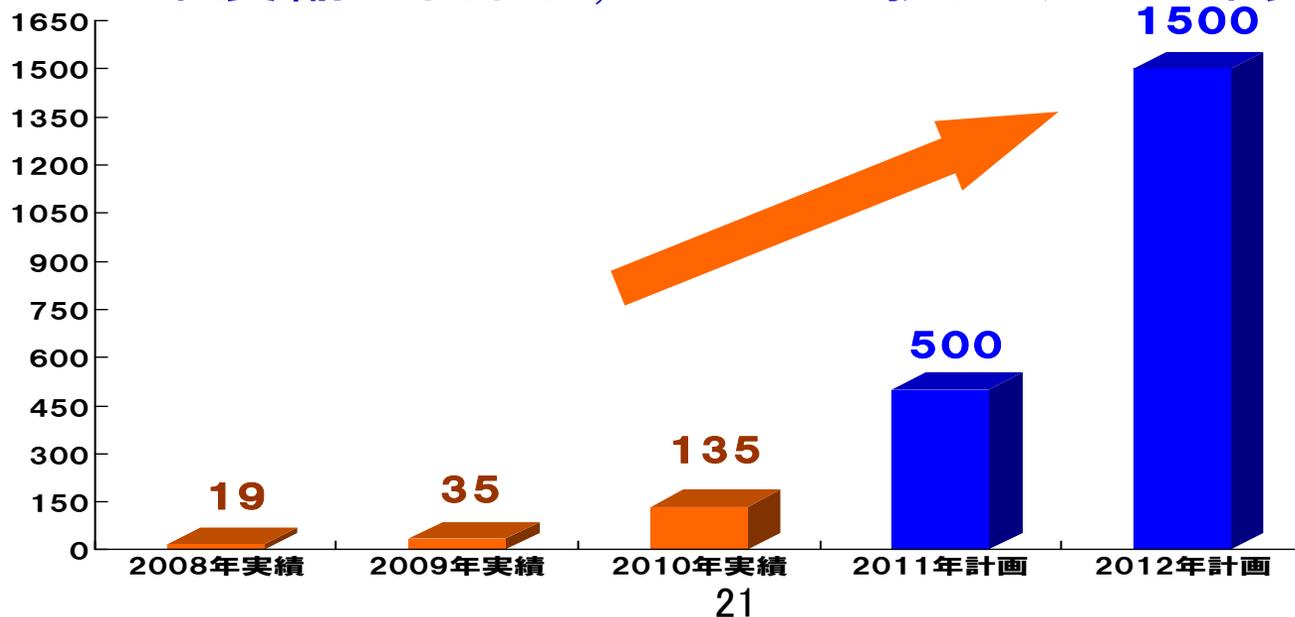
3-2-3. 今後の経営戦略

海外におけるコメビジネスの拡大

◆ 国産米の輸出拡大

- ・ 全国米関連食品輸出促進会（全米輸）に参加
- ・ 中国輸出促進協議会（仮称）に参加

2012年度輸出計画1,500トンに拡大（2010年実績135トン）



3-3-1. 今後の経営戦略

新しい用途、付加価値商品の開発

◆国内自給率向上への取組み

- ・小麦代替米粉の新規需要米の契約栽培の推進
- ・加工用米の活用(加工用米取引センターに参画)

◆機能性コメ加工食品開発の促進

- ・低たんぱく商品の拡充
(味噌汁、焼きおにぎり新発売)
- ・低カロリー米の発売(平成23年4月頃予定)



低たんぱく焼きおにぎり



低カロリー米パック

- ・生活習慣病等の予防に役立つ新たな食生活の提案

3-3-2. 今後の経営戦略

新しい用途、付加価値商品の開発

◆コメの新たな価値創造

- ・「おこめにすすもう」シリーズの拡充
「こめしぼり ドレッシング・たれ・ソース」2種発売開始
- ・ライスミルクの発売(4月プレスリリース予定)
- ・コメ糠の食用化に係わる取組みの促進
- ・グループの資源、ノウハウの活用、
食品事業子会社とのコラボの強化



トマト味



刻みオニオン&生姜



こめ油



こめ油受賞賞状



ライスミルク

3-4. 今後の経営戦略

特徴ある飼料事業の成長

◆販売規模の拡大

国内外の飼料原料の価値創造と優位性の発揮により、
販売数量や販売エリアの更なる拡大



アメリカ農場

◆輸入飼料の開発強化

グループの海外法人(ベトナム、タイ)との連携、
国内ニーズにマッチする輸入飼料の取扱強化



荷役

◆付加価値商品の開発

コメ糠を飼料原料から多用途への転換
(食品原料、化粧品原料)



検品

3-5. 今後の経営戦略

食品事業・鶏卵事業の収益改善

◆ 鶏卵事業・鶏肉分野

- ・提案型営業の実践、既存取引基盤の強化
- ・付加価値商品（JAS有機認定オーガニックチキン、コメ等を飼料とする「こめ鶏」）の販売
- ・鶏肉加工子会社に注力し更なる事業展開を図る



カロチンE卵



つくばこめ鶏

◆ 惣菜分野

- ・他社が真似できない手作り惣菜の良さを発揮
- ・ニッチ分野への特化、地域や取引先の絞込み



スープカレー



洋風クリームスープ



黒豆・クコの実入りお粥



野菜ミネストローネ

お問い合わせ先

◆IR連絡責任者

取締役常務執行役員

管理部門副部門長 伊豫田 直記(いよだ なおき)

TEL 03-5636-1501

FAX 03-5636-1601

◆IR及び広報窓口

管理部 経営管理室

TEL 03-5636-1502

FAX 03-5636-1608

Email info@kitoku-shinryo.co.jp

注意事項

本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等と異なる可能性があります。